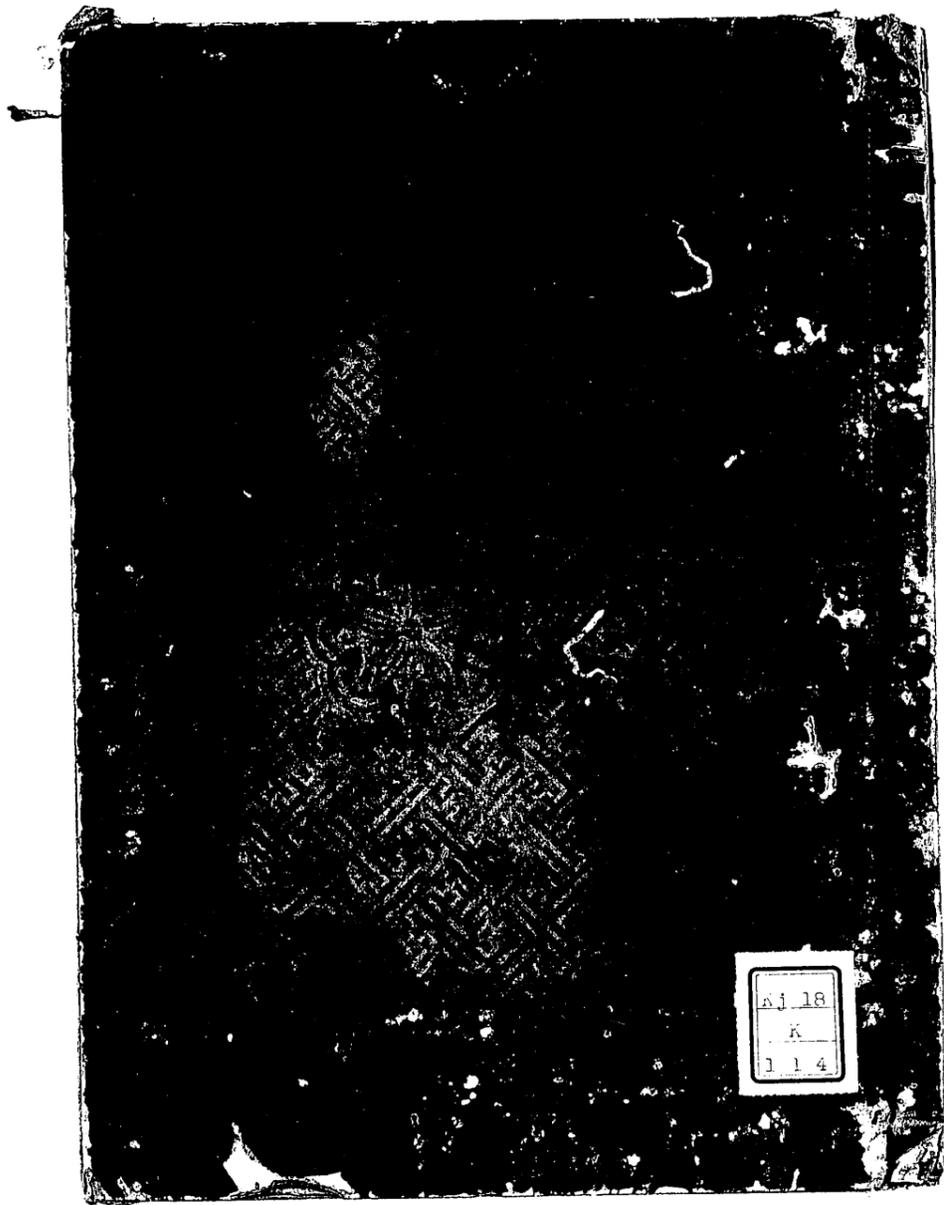


文書名	福岡藩公事方秘録 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学法学部
撮影年月日	昭和56年 7月 16日
福岡県文化会館	



A. J. 18
K
1 1 4



公事方抄

一 本朝北の御抄解

二 出兼の御抄解

三 御事所御抄解

四 御事御抄解

五 御事御抄解

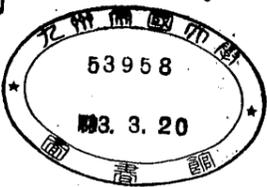
六 御事御抄解

七 御事御抄解

八 御事御抄解

九 御事御抄解

十 御事御抄解



一 村方四年方... 誰代... 村人... 但... 唯... 他... 在...

一 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五

一 向來不志海河原... 社... 同...

進達書上... 及...

四九一 旧羅書...

五十一 而任加...

五二 而回...

五三 比及...

五四 由是...

五五 入書...

五六 不...

五七 由...

五八 由...

五九 由...

六〇 由...

六一 由...

六二 由...

六三 由...

六四 由...

六五 由...

六六 由...

六七 由...

六八 由...

六九 由...

七〇 由...

七一 由...

六〇一

高木の住

六〇二

洋定不恒筋

六〇三

望和修とわいの

六〇四

数合洋海方信

六〇五

道能

六〇六

祝堂と文の事

六〇七

貸金と入札

六〇八

取巻と入札

六〇九

訴入用

六一〇

貸金と入札

六一一

取巻と入札

七二

白根舟

七三

白根舟

七四

白根舟

七五

白根舟

七六

白根舟

七七

白根舟

七八

白根舟

七九

白根舟

八〇

白根舟

八一

白根舟

八二

白根舟

八三

白根舟

八六

以代官の利便出入するに 依るの記号

八九

因家筋下通の各所よりの中

九一

盲人

九二

高崎の成泉

但所状又腹の各所を以て

九三

青流社人修験寺の人百程に諸事貸金院

利便

九四

所欠の記号

九五

歳評の支の各所を以て

九六

日新の支の各所を以て

九七

依る

九八

修験の記号

九九

津原の記号

一〇〇

津原の記号

一〇一

津原の記号

一〇二

津原の記号

一〇三

津原の記号

一〇四

津原の記号

一〇五

津原の記号

一〇六

津原の記号

一〇七

津原の記号

一〇八

津原の記号

百七

千石入の信を付らぬの事不承之申合ふ事
有ししは後々も不承之申合ふ事

百八

百石の病を治す代に時給を出入り申す事
主合り申す代に所出入り申す事

百九

一件の内川有る事

百一

陸地清い事之旨申す事江戸并に上取之排
所申す事江戸并に上取之排

百二

其代に申す事

百三

那人の事

百四

産後宿金代に不承之申合ふ事用合ふ事別

百五

在付る事信文と科律申す事

百六

捨地清く申す事

百七

半張清く申す事

百八

此りて下り申す事江戸并に上取之排

百九

伊勢社に在る所を申す事

百十

已科知る事との事

百十一

貨代に申す代に利是也海方

百十二

旧更に申す事

百十三

田代に申す代に

百十四

代に申す事

百十五

与信社に申す代に

百十六

底身申す代に

百十七

帳文一件に

百三十一
〇〇三十一
〇〇三十二
〇〇三十三
〇〇三十四
〇〇三十五
〇〇三十六
〇〇三十七
〇〇三十八
〇〇三十九
〇〇四十

中位直火中
大所取の儀分
伊豆守の儀
程多延人の儀
江戸可程多延
〇〇四十

拾校向苗の儀
程多延人の儀
入卒の儀

〇〇三十一
〇〇三十二
〇〇三十三
〇〇三十四
〇〇三十五
〇〇三十六
〇〇三十七
〇〇三十八
〇〇三十九
〇〇四十

年々
〇〇三十一
〇〇三十二
〇〇三十三
〇〇三十四
〇〇三十五
〇〇三十六
〇〇三十七
〇〇三十八
〇〇三十九
〇〇四十

用水出入
掘井
長崎
橋場
地

百五十一

坊主... 坊主... 坊主...

百五十二

坊主... 坊主... 坊主...

百五十三

坊主... 坊主... 坊主...

百五十四

坊主... 坊主... 坊主...

百五十五

坊主... 坊主... 坊主...

百五十六

坊主... 坊主... 坊主...

百五十七

坊主... 坊主... 坊主...

百五十八

坊主... 坊主... 坊主...

百五十九

坊主... 坊主... 坊主...

百六十

坊主... 坊主... 坊主...

百六十一

坊主... 坊主... 坊主...

百六十二

坊主... 坊主... 坊主...

百六十三

坊主... 坊主... 坊主...

百六十四

坊主... 坊主... 坊主...

百六十五

坊主... 坊主... 坊主...

百六十六

坊主... 坊主... 坊主...

百六十七

坊主... 坊主... 坊主...

也善而多致... 一

新... 二

... 三

... 四

... 五

... 六

... 七

... 八

... 九

... 十

... 十一

... 十二

... 十三

... 十四

... 十五

... 十六

... 十七

... 十八

... 十九

... 二十

... 二十一

... 二十二

... 二十三

一 抱ふ事なきを言はば 後にも後にも 通る事なきを言はば

申すは 二月

不しき事なき言はば 中絶なきを言はば 事なきを言はば

四 抱ふ事なきを言はば 後にも後にも 通る事なきを言はば

伊位と 事なき

父子 兄弟 祖父母

閨門と 作事なき

不り事 作事なき

過事と 作事なき

事なきと 作事なき

申すは 抱ふ事なきを言はば 後にも後にも 通る事なきを言はば 事なきを言はば

一 抱ふ事なきを言はば 後にも後にも 通る事なきを言はば

又 抱ふ事なきを言はば

後にも後にも 通る事なきを言はば

申すは 抱ふ事なきを言はば 後にも後にも 通る事なきを言はば 事なきを言はば

一 抱ふ事なきを言はば 後にも後にも 通る事なきを言はば

在野の如く、言人地は、絶市、... 其の如く、言人地は、絶市、... 其の如く、言人地は、絶市、...

百何人、... 其の如く、言人地は、絶市、... 其の如く、言人地は、絶市、...

安、... 其の如く、言人地は、絶市、... 其の如く、言人地は、絶市、...

六、... 其の如く、言人地は、絶市、... 其の如く、言人地は、絶市、...

... 其の如く、言人地は、絶市、... 其の如く、言人地は、絶市、...

西、... 其の如く、言人地は、絶市、... 其の如く、言人地は、絶市、...

石ノ有レハ... 及ク... 出ル...

成平月

此代... 六月... 倉... 取...

上

此代... 百姓...

上

此代... 百姓...

上

此代... 百姓...

此代... 百姓...

上

此代... 百姓...

改定... 代... 誰...

一志

村内... 誰... 誰...

九月

... 誰... 誰...

一竹...

誰... 誰... 誰...

九月

... 誰... 誰...

... 誰... 誰...

此の書は... 凡そ... 記す... 事... あり... 也... 云々

... 記す... 事... あり... 也... 云々

... 記す... 事... あり... 也... 云々

... 記す... 事... あり... 也... 云々

他も在りて... 此の地... 昔の... 今も... 昔の... 今も... 昔の... 今も...

世五 南河原... 一札

南河原... 此の地... 昔の... 今も... 昔の... 今も... 昔の... 今も... 昔の... 今も...

此の地... 昔の... 今も... 昔の... 今も... 昔の... 今も... 昔の... 今も... 昔の... 今も...

室の... 二...

此の地... 昔の... 今も...

後人の上り居る郡都の事なり不忠孫の事海山
の事郡都の事海山
の事郡都の事海山
の事郡都の事海山

庚子月

廿七
後人の上り居る郡都の事なり不忠孫の事海山
の事郡都の事海山
の事郡都の事海山
の事郡都の事海山

後人の上り居る郡都の事なり不忠孫の事海山
の事郡都の事海山
の事郡都の事海山
の事郡都の事海山

五月

後人の上り居る郡都の事なり不忠孫の事海山
の事郡都の事海山
の事郡都の事海山
の事郡都の事海山

廿七

後人の上り居る郡都の事なり不忠孫の事海山
の事郡都の事海山
の事郡都の事海山
の事郡都の事海山

右の通愛路七甲年十月甲申也

廿八

一 多良由山に人絶た唯今今居尋人候身同
千石の徳又唯今今居尋人候身同
りたれ今今居尋人候身同
下中尋人候身同
中後居尋人候身同
少後居尋人候身同

廿九

癸酉

把多良由山に人絶た唯今今居尋人候身同

千石の徳又唯今今居尋人候身同
りたれ今今居尋人候身同
下中尋人候身同
中後居尋人候身同
少後居尋人候身同

六月四日

千石の徳又唯今今居尋人候身同
りたれ今今居尋人候身同
下中尋人候身同
中後居尋人候身同
少後居尋人候身同

廿九

千石の徳又唯今今居尋人候身同
りたれ今今居尋人候身同
下中尋人候身同
中後居尋人候身同
少後居尋人候身同

千石の徳又唯今今居尋人候身同

千石の徳又唯今今居尋人候身同
りたれ今今居尋人候身同
下中尋人候身同
中後居尋人候身同
少後居尋人候身同

八月

世四 大して... 一... 二...

世四 王言... 一... 二...

二五

あ... 一...

世四 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

世四

世四 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

一

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

十番町里穀の... 田舎... 稲... 田舎... 稲... 田舎... 稲...

平泉修編
中川一郎

三十一
至可神社平儀... 稲... 田舎... 稲... 田舎... 稲...

一 明和二百... 稲... 田舎... 稲... 田舎... 稲...

七 通

七月

又圓舟

子國... 柳...

三十七
知り割... 稲... 田舎... 稲... 田舎... 稲...

一 村... 稲... 田舎... 稲... 田舎... 稲...

神田村の戸数と人口は、明治初年より漸次増加し、昭和初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。山部地区は、明治初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。

山部地区の戸数と人口は、明治初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。

山部地区の戸数と人口は、明治初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。

山部地区の戸数と人口は、明治初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。

山部地区の戸数と人口は、明治初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。

山部地区の戸数と人口は、明治初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。

山部地区の戸数と人口は、明治初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。

山部地区の戸数と人口は、明治初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。

山部地区の戸数と人口は、明治初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。

山部地区の戸数と人口は、明治初年頃には、戸数約千戸、人口約千名に達した。この増加は、主に、山部地区からの移住によるものである。

少物必以直上法流又了行

係是持之性

四事之有之月利性

陸地性兼石境又致

相侵入下照性

欠存之の二件 但年中...

村多本河内性

不月出又法中...

村性息

公事出入信及五條...

倉之乃の四難性...

郡台之申百...

但此科不...

不素之...

不知其代...

不之...

子

三十八

少物必以直上法流又了行

係是持之性

四事之有之月利性

陸地性兼石境又致

相侵入下照性

欠存之の二件 但年中...

村多本河内性

不月出又法中...

村性息

公事出入信及五條...

倉之乃の四難性...

郡台之申百...

但此科不...

不素之...

不知其代...

不之...

子

三十八

少物必以直上法流又了行

係是持之性

四事之有之月利性

陸地性兼石境又致

相侵入下照性

欠存之の二件 但年中...

村多本河内性

とる人... 年... 村...

言... 子月

但州郷... 田... 村... 社...

お... 村...

一... 村... 社... 村...

四十九
此神あり此四難修かたはゆひのちたはれ人々をいひて
之能くなりしなり町なりあるに町なりありては留はれ
其の能くなりしなり町なりあるに町なりありては留はれ
九市にありては留はれと云はれりありては留はれ
白雲

三十一
此神あり此四難修かたはゆひのちたはれ人々をいひて
之能くなりしなり町なりあるに町なりありては留はれ
其の能くなりしなり町なりあるに町なりありては留はれ
九市にありては留はれと云はれりありては留はれ
白雲

一
之能くなりしなり町なりあるに町なりありては留はれ
其の能くなりしなり町なりあるに町なりありては留はれ
九市にありては留はれと云はれりありては留はれ
白雲

白雲
此神あり此四難修かたはゆひのちたはれ人々をいひて
之能くなりしなり町なりあるに町なりありては留はれ
其の能くなりしなり町なりあるに町なりありては留はれ
九市にありては留はれと云はれりありては留はれ
白雲

三十一
此神あり此四難修かたはゆひのちたはれ人々をいひて
之能くなりしなり町なりあるに町なりありては留はれ
其の能くなりしなり町なりあるに町なりありては留はれ
九市にありては留はれと云はれりありては留はれ
白雲

...
...
...
...
...

五月

六月
北条...
上列...
...

...
...
...
...
...

七月
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

八月
...
...
...

...
...
...
...
...

五月

...
...
...
...
...

予の腹中... 一月... 伴使... 田原... 伊豆... 河

伴使... 田原...

伊豆... 河

伊豆... 河

中九... 東海道... 田原... 伊豆... 河

一... 移... 田原... 伊豆... 河

東河... 田原... 伊豆... 河

中二日

田原... 伊豆... 河

伊豆... 河

六十

初... 田原... 伊豆... 河

田原... 伊豆... 河

田原... 伊豆... 河

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり
と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり
と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

あはれに云ふ所なり

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

三十一
信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、
信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、
信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、
信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり
と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり
と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

三十二

信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、
信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、
信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、
信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

三十三

信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、
信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、
信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、
信じて居る人々の後をいへば、
又いふ人々の後をいへば、

と云ふ所を千日と云ふ所中何所二丁目と云ふ所なり

官費人有... 何役人... 官費人... 何役人... 官費人... 何役人...

一... 延正元年二月

六十四 延正元年二月

... 延正元年二月... 延正元年二月...

... 延正元年二月... 延正元年二月...

延正元年二月廿九日

六十五 延正元年二月廿九日

... 延正元年二月廿九日... 延正元年二月廿九日...

延正元年二月

六十六

... 延正元年二月... 延正元年二月...

延正元年二月

吟味し復し修し身し下り書片
何れも年中にて修むる作後事也

己二一

以節定むる也

中捕り方公事 方其代友並内郎前 本入河江中入修し記紙
川更に味修し先中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙
中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙

中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙
中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙
中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙

中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙
中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙
中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙

中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙
中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙
中捕り方公事 方其代友並内郎前 記紙

己二一

神皇正統記
神皇正統記
神皇正統記

天保元年中
神皇正統記
神皇正統記

神皇正統記
神皇正統記
神皇正統記

神皇正統記

三十一 命主は...

是の如く守るべき例は... 命主は... 守るべき例は...

命主は...

命主は...

七十二

秘世更... 命主は... 守るべき例は...

七十二

命主は... 守るべき例は...

命主は...

命主は... 守るべき例は...

命主は...

命主は...

七十二

命主は...

命主は... 守るべき例は...

七十二

命主は...

命主は... 守るべき例は...

命主は... 守るべき例は...

一 白蓮寺の女を法事
 一 宗物の子を法事
 但名指寺の子を法事
 一 改正の宗物を法事
 一 宗物を法事

七十九
 宗物の子を法事
 宗物の子を法事
 宗物の子を法事
 宗物の子を法事
 宗物の子を法事

宗物の子を法事
 宗物の子を法事

宗物の子を法事
 宗物の子を法事

宗物の子を法事
 宗物の子を法事

宗物の子を法事
 宗物の子を法事

宗物の子を法事
 宗物の子を法事

八十
此乃本年冬に初め得た所也
小舟に乗るの事上極り多し
其れは、
未二月

初瀬
曲洲甲斐守

二十
初瀬
初瀬
初瀬

初瀬
初瀬

初瀬
初瀬

初瀬
初瀬
初瀬

御下

甲

此中句は... 御下... 甲... 此中句は... 御下... 甲... 此中句は... 御下... 甲...

支甲

御下

御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下...

御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下...

御下

御下

御下

八十二

御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下...

御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下...

御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下...

御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下...

御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下... 御下...

八十三
百五十九号 佛堂寺 具白 宗号 依之 百八十七号
古本宗 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之
此の如く 依之 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之
又 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之
一 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之
二 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之
三 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之

八十四
宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之
宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之 宗号 依之

不 通 海 西 日 本 年 十 月 号 詳 係 極

一 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿
二 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿

一 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿
二 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿

一 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿
二 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿

一 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿
二 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿
三 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿
四 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿
五 代 友 友 社 社 員 入 社 者 名 簿

八十九

古神不在此知事申す一書に於て新に過りたる所を
以てのり作爲す申す六月廿五日申す此代官の申すに
人未だ承知せず申す此代官の申すに
書面由依今更に申す此代官の申すに
度い申す此代官の申すに
申す此代官の申すに
四節申す此代官の申すに

古く寛政四年二月何と申す此代官の申すに

但此より承知せず申す此代官の申すに
申す此代官の申すに
申す此代官の申すに
申す此代官の申すに
申す此代官の申すに

九十八

又建中五年船通百軒町人傳す此代官の申すに
申す此代官の申すに
申す此代官の申すに
申す此代官の申すに
申す此代官の申すに

九十七

此より申す此代官の申すに
申す此代官の申すに
申す此代官の申すに
申す此代官の申すに
申す此代官の申すに

古く寛政四年八月

九十二

一寺院社人僧換出... 今俗法又手漢文出... 其色を香を修む... 今俗法又手漢文出... 判るる様

乙未年六月二十一日... 評... 極

九十三

今般由任... 神... 九十九日

今般由任... 任... 門... 三...

今般由任... 任... 門... 三... 乙未年

持丸素

三十七日

今般由任... 任... 門... 三...

南無妙法蓮華經... (Main text on the right page, written vertically)

九月

九十四

... (Text at the bottom of the right page)

... (Text on the left side of the right page)

九十五

... (Text at the top of the left page)

... (Main text on the left page, written vertically)

一 孝行 二 孝行

古く通ずる解りたりし事なり
殿下り了事申切合内之事なりし之例有り
届候様
王様上在奉二月廿一日洋島様

百二
澄燦由仕重個古く申事なる事申す事
二月廿一日
向候御事申す事申す事申す事申す事

任法
兼の御令入

百三
右之任法

海島由仕重個古く申事なる事申す事
二月廿一日
向候御事申す事申す事申す事申す事

百四

御下り了事申切合内之事なりし之例有り
届候様
王様上在奉二月廿一日洋島様

ふゆねのてんげん

正甲子

御中

少御後書

青島伊藤

百六

川崎平太海軍少佐... 御中... 少御後書... 青島伊藤

乙未年

石川通... 御中... 少御後書

百六

石川通... 御中... 少御後書

石川通... 御中... 少御後書

以年之福人福也... 亦地之... 作... 他... 使... 其...

一 通... 村... 山... 又... 載... 詳... 地... 序... 詳...

百七 不... 通... 年... 月... 日... 詳... 詳... 詳...

一 通... 年... 月... 日... 詳... 詳... 詳... 詳... 詳...

是... 下... 人... 住... 處... 不... 詳... 詳... 詳... 詳...

百八 不... 通... 天... 年... 月... 日... 詳... 詳... 詳...

一 通... 年... 月... 日... 詳... 詳... 詳... 詳... 詳...

不... 通... 年... 月... 日... 詳... 詳... 詳... 詳... 詳...

百九 不... 通... 年... 月... 日... 詳... 詳... 詳... 詳... 詳...

その言はるるに、
望月大友一、
但し、

但し、
付、

口伝、

古く、
一、
付、
子、

甲、
乙、

百十一

一、
二、
三、
四、

五、
六、
七、
八、

九、
十、
十一、
十二、

加藤大判宛洋紙
是レ海江才三平在村ノ内在子村ハ品種凡種 村ノ移成ニ身
等種ナリ 沙列下等品不用ナリ 任之身知定ナリ 神判
其方知判

百廿一
以ノ事候キ者ト又七全勇上ノ品種ノ科ト之科ト其個知
事ニ之科ト有レ之品種 中ノ文平石ノ品種 科
品種中ノ品種 所候ノ中ノ品種 今ノ品種 品種 品種
中ノ品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種
但何事ニ品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種

百廿二
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種

百廿三
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種

百廿四
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種

品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種

品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種

品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種

品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種
品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種 品種

約し何事とて一六月之書とるもの代官六月十日書之通付
午六月十日之書上言明初二年一月十日之書通付
伝と云傳通付
六月十日

一 昭和二年
年境社人活後、（注）

日三十一
昭和二年七月十日手觸以、（注）
人、（注）
七月十日
昭和二年七月十日手觸以、（注）
人、（注）
七月十日

昭和二年七月十日手觸以、（注）
人、（注）
七月十日

昭和二年七月十日手觸以、（注）
人、（注）
七月十日

昭和二年七月十日手觸以、（注）
人、（注）
七月十日

昭和二年七月十日手觸以、（注）
人、（注）
七月十日

昭和二年七月十日手觸以、（注）
人、（注）
七月十日

昭和二年七月十日手觸以、（注）
人、（注）
七月十日

長島に於て

大正通王に二兵年九月より十月迄の事あり

伊藤の宅内を看

百二十八

眠るに入るも代官吐唾中内係及び其の傍に候て
其の傍に候て名指し候へども其の傍に候て眠るに
白濁農業便世に傳へて平倉の上内係に候て
其の傍に候て其の傍に候て其の傍に候て
其の傍に候て其の傍に候て其の傍に候て

其の傍に候て其の傍に候て其の傍に候て

伊藤の宅内を看

大正通王に二兵年九月より十月迄の事あり

伊藤の宅内を看

世に傳へて其の傍に候て其の傍に候て

九月

百二十九

眠るに入るも代官吐唾中内係及び其の傍に候て
其の傍に候て名指し候へども其の傍に候て眠るに
白濁農業便世に傳へて平倉の上内係に候て
其の傍に候て其の傍に候て其の傍に候て
其の傍に候て其の傍に候て其の傍に候て

其の傍に候て其の傍に候て其の傍に候て

予は嘗ては行方無常の世に生れし者なり其の心を
常に正しくし居るべき事なり

一 穀子の底身は其の或しは伊達の社に在りしは近
北より南に在りしは左に在りしは右に在りしは
一 予は嘗ては行方無常の世に生れし者なり其の心を
常に正しくし居るべき事なり

一 但し人の心は常に正しくし居るべき事なり其の心を
常に正しくし居るべき事なり

一 一 予は嘗ては行方無常の世に生れし者なり其の心を
常に正しくし居るべき事なり

一 一 予は嘗ては行方無常の世に生れし者なり其の心を
常に正しくし居るべき事なり

一 一 予は嘗ては行方無常の世に生れし者なり其の心を
常に正しくし居るべき事なり

不...
...

山...
...

百三十

一...
...

...

一...
...

...

...

一...
...

...

一...
...

...

...

...

...

...

百三十一
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強

大津及び河内方面に於ける海軍の増強
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強

百三十二
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強

大津及び河内方面に於ける海軍の増強
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強

大津及び河内方面に於ける海軍の増強
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強
一 大津及び河内方面に於ける海軍の増強

大津及び河内方面に於ける海軍の増強

是の如く紀と名に成る事多し極品極品一
なり本邦の如くは信人又と醫師も多し
後極品多し来たし物多し本邦の如くは
百位町人おとた所より多し本邦の如くは
但武蔵守りありしは多し本邦の如くは

本通極品多し本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは

享和元年六月七日 船中記
一統津佐極品

中絶定行記

百三十四

釋美那ノルシ布多し極品多し本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは
七月

享和元年七月

船中記

日三十一
伊豆の如くは本邦の如くは

本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは

本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは
本邦の如くは本邦の如くは本邦の如くは

享和元年七月十日 舟中記

舟中記

船中記

控授有為の任を之として利令嗚呼... 中任主南... 又七
 或家川合元信... 備使... 事記... 事... 事...
 ホ又... 事... 事... 事... 事... 事... 事...
 甲斐... 事... 事... 事... 事... 事... 事...
 左... 事... 事... 事... 事... 事... 事...
 不見... 事... 事... 事... 事... 事... 事...
 出... 事... 事... 事... 事... 事... 事...
 合... 事... 事... 事... 事... 事... 事...
 在... 事... 事... 事... 事... 事... 事...

不... 通... 事... 事... 事... 事... 事... 事...

日... 事... 事... 事... 事... 事... 事...

不... 通... 事... 事... 事... 事... 事...

日... 事... 事... 事... 事... 事... 事...

不... 通... 事... 事... 事... 事... 事...

日... 事... 事... 事... 事... 事... 事...

是も海沿官用取込下... 双月の紅石... 厚板... 見り... 川... 山... 可... 不...

不... 通... 川... 翌...

濃... 大...

日... 女... 昔... 此... 移...

日... 不... 八... 此... 此... 不...

日... 一... 荒... 出... 出... 出...

書付の同文にて後世同好者へ
不名漢文なる凡多合意又して
及後有る一と云ふ未年伴他
注脚ありて其意を明かにす
必あるに古意を考へて其
に付後述の如く其意を明
くす上例し有るは其意を
海に於て其意を明かにす
一回中世に於て其意を

石文化元子年四月一十九日

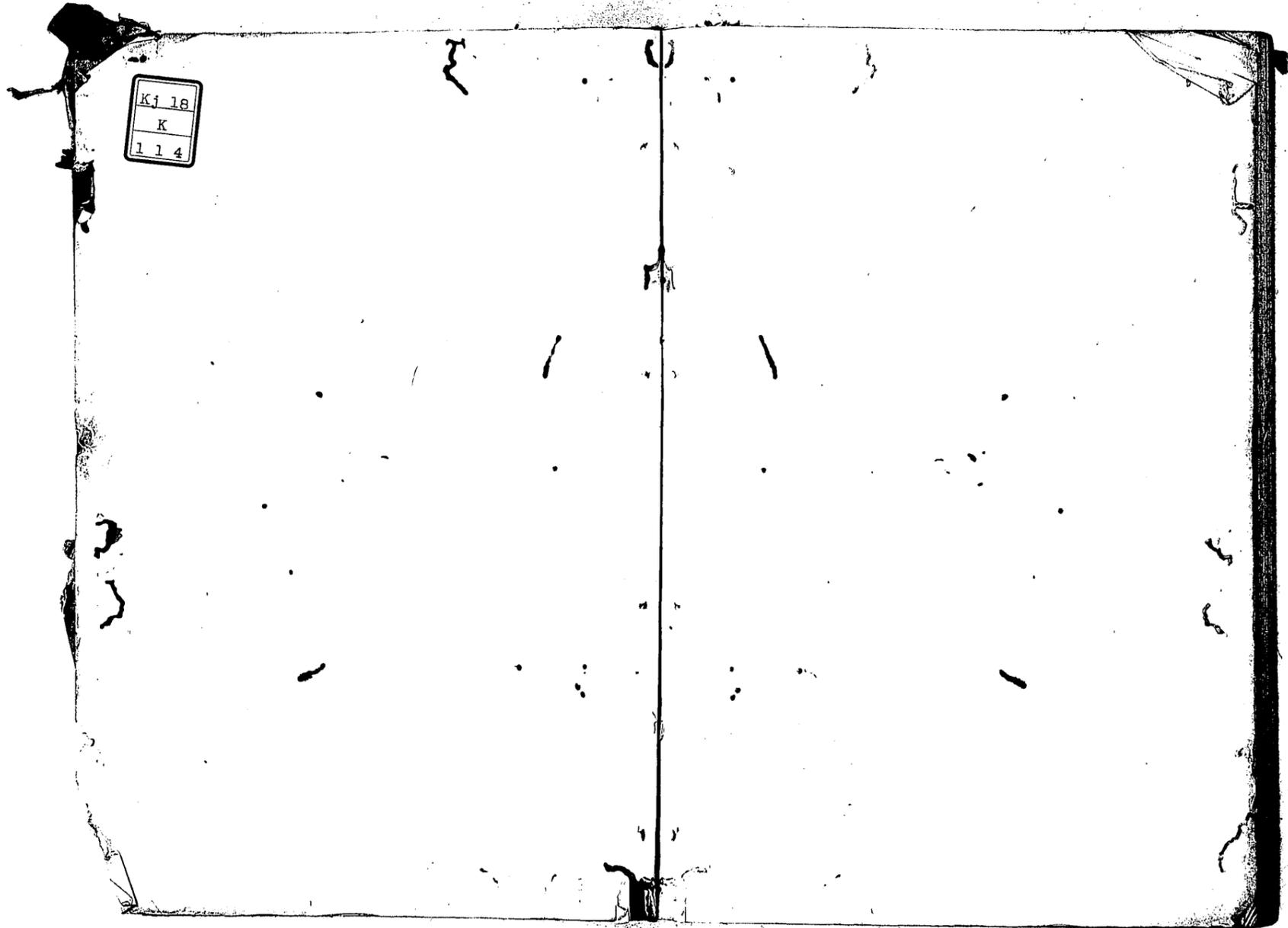
貸金出入書付の如く
記因に於て其意を明かにす
例有るは其意を明かにす

双行洋字の如く其意を明かにす
其意を明かにす

其意を明かにす
其意を明かにす

其意を明かにす
其意を明かにす

其意を明かにす



Kj 18
K
114

